



Humanitas

フマニタス



Feb. 2012

Vol.V No.2

通巻10号

卒業生から皆さんへ

私の英語の速記への出会いと職歴

長坂 桂子 (短期大学 英語科 1957年3月卒業)

私は、昭和32年3月、西南女学院短期大学英語科を卒業しました。当時は、Aクラス40名(私はAクラスでした。)とBクラス40名の合計80名でした。今日は私がどうして英語の速記を習うきっかけになったかを出来るだけ短くわかり易く書いてみようと思います。

卒業後の就職の希望は、中学校の英語の教師になる事でしたがありませんでしたので、東京の叔父を頼って上京しました。叔父が紹介して下さいた仕事をおことわりして、自分で朝日新聞の求人欄をみて、日本の輸出の貿易会社をみつけ入社試験を受けたのです。ペーパーテスト、タイプライティングと会話の試験などでした。一週間後に合格の電報を受け取り、叔父もびっくりし、「その会社は本当に大丈夫か・・・？」と言って見に来ました。

その会社は、東京、大阪、神戸に支店があり、中位の良い会社でした。東京支店長はハワイ生まれの二世で中年の女性の秘書が付けていました。私はその下の部長の秘書兼タイピストでした。

入社後半年位たった時、その秘書の方が私を食事に誘って下さり、そこで「貴方の試験の結果を拝見しました。文法もしっかり基礎が出来ているし22才の若さだから、英語の速記を習ったらどうですか。たとえ10年かかっても私よりはずっと若い32才でしょ。英文速記者になると社長、支店長、重役クラスの秘書として働けるし引く手あまたですよ・・・。」と言われました。彼女が「実は、私はYWCAで毎週土曜日の午後だけ『SIMPLIFIED』(シンプリファイド)式の英語の速記を教えています。」と話されました。その話がきっかけとなり、その年の10月から四ツ谷の日米会話学院の「グレッグ式の速記」を習い始めたのです。毎週土曜日、午後二時半から五時半まででしたが、先生は大切な所だけを説明し、後は全部宿題で大変でしたが何とか乗り越えられたのです。入学時は46人でしたが月日が経つにつれ、どんどん生徒が少なくなって、上級コースも終わった時は私と友人二人になりました。この二人は慶応大学と津田塾大学の四年生大学を卒業された方でした。私は短大出身ですが劣等感はなくありませんでしたが、心の隅には彼女達に並んでついでに行こうと思いました。授業が始まった第一日目に、小山ラインハート先生が私達の机のまわりに来られて私の所で止まり、「君は速記の勉強は初めてではないね？」と言われて私はびっくりしたのです。「いいえ先生、今日初めてですが。」と私は答えましたら、「そう？速記のサインがとっても正確だ。がんばりなさい。きっとものになるよ。」と言われたのです。この先生のお言葉がどんなに私を勇気づけて下さった事でしょう。それから毎夜、九時頃から夜中位まで指にタコが出来る位に復習しました。遊ぶ時間はありませんでしたが苦痛でもありませんでした。初級、上級コースを修了した後、「スピードアップ」のコースへ進みました。私は日米会話学院への土曜日の午後二時間半と津田塾の月水金の夜のコースをかけもちで行ったのです。今考えてみましても両方の学校へ行くという考えがよく出て来たなあと思い、自分で自分をほめてあげたいと思います。

こうして26才の時から英文速記者として30年以上働いて参

りました。アメリカ最大の船会社、「ユナイテッド ステーツ ラインズ Co.」に五年間、東京支店長の秘書として働き、その後27年間は「タイム、ライフ、ニュース、サービス」の東京支店長の秘書として、ニュースの編集の仕事をして参りました。アメリカでは編集という場合、EDITORIALは使いません。私は転職を考える時、2~3ヶ月は試験の為の勉強をしますので、2度の就職試験に失敗した事はありません。そしてサラリーに関しては「貴女は、いくら欲しいですか」と聞かれる世界ですから、こちらからはっきり理由を言って要求するのです。

速記は音(発音)でとりますので、PSYCHOLOGY(サイコロジー)を例にとりますと、「S」から書くのですが、英文にトランスクリプト(TRANSCRIPT)する時は、「P」を正しく書かなくてはなりません。グレッグ式は長いスペリングの単語を少ししか書き取りませんのでスピードは出ますが、トランスクリプトする時は難しいです。(例:サイコロジー→「㊦」→これがサイコロジーです。)

会社で支店長達に「自分も少しでも速記を習えばよかった。インタビューする時や記者会見の時などどんなに助かるか・・・」とうらやましがられました。特にアメリカ大使館からの記者会見のお知らせなどさっさとメモ的に重要な所だけを速記して後で文にまとめるのですがとても便利です。私は、今も毎日日記を英語の速記で書いています。本当に勉強してよかったと思いますし、やはり西南短大での英語の勉強が基礎になっていると感謝しています。私は、短大や大学で勉強するのは基礎を教えて下さるので卒業後は自分で自分なりの勉強をすべきだと思います。大学を卒業したから即どこの会社でも働けるというものではありません。

現在は私が学生だった頃とは全く異なっていますし、勉強のやり方や道具も違いますので今の学生さんに適用するとは思いますが、ただ私の経験をありのままに筆をとりました。



愛する「要」達へ

シャロンの会 会長

樋口 安代 (短期大学 英語科1989年3月卒業)



この文を読む頃、皆、様々な想いを胸に秘めている事だろう。その中でも特に卒業生にむけてお伝えしたい。

私は社会人として20年以上を経た今、色々な新入社員を見てきた。その姿は時代と共に移行行くものであるが、最も大切な不変のものが1つだけある。それは「素直さ」。そして、この「素直さ」の基にあるものは、スクールモットーの「感恩奉仕」に他ならない。他者に対する感謝の気持ちは内面から滲み出る。この資質を備えた子は間違いなく周りから愛され、故に仕事の覚えも早く、信頼と評価を得る。ただし、全てにおいて受動的ではなく、自らの探究心(能動的)も忘れない。現代の子は失敗を恐れるあまり受け身の姿勢が多いのだが、誰も完全な人などいない。失敗を恐れず challenge し、糧とし、成長していくもの。多くの先輩方はその努力を惜しまず、この「要」の伝統を守り抜いてきた。社会に出れば出身校を尋ねられる場面が出てくる。その時、胸を張って母校の名を口にして欲しい。そして、貴女達を育ててくれた母校への恩返しとして、社会で活躍して欲しい。西南を愛し、見守り、支えて下さっている先輩方は貴女達の身近に多くいる。今はまだ、ピンとこないかもしれない。しかし、時が経つにつれ母校への愛情は深まっていくことと思う。その時、良い経験談(笑う事も泣く事も全て良い経験である)を携えて、再びこの坂を上って頂けないだろうか。「今」の貴女達は数年後の貴女達の後輩には大きく思える存在なのである。

2011年7月9日 西南女学院同総会人文学部会総会において会の愛称が「シャロンの会」と決まりました。当日は西南を愛し、支えて下さっている松田先輩が総会後の交流会に華を添えて下さいました。先輩は社会人として現役でもあり、週末はボランティアとしてグループの皆様と施設を訪れご奉仕をされる中、4月か

ら交流会の為に尽力下さいました。ここに改めましてお礼を申し上げますと共に先輩のご紹介をさせていただきます。このように、シャロンの会は温かな多くの先輩・後輩との繋がりを今以上に深めて参りたいと思っております。会は様々なスキルを持たれた先輩方から貴重なアドバイスを頂ける素晴らしい機会です。卒業にあたり、是非シャロンの会へご入会下さい。同窓生という繋がりは必ず心の憩いの場と自身の糧として必要となる事でしょう。

松田 真砂子 (短期大学 英語科1973年3月卒業)



西南の皆さま、こんにちは、世界の民族楽器を演奏するグループ『ユニット・由縁(ゆかり)』の松田です。真夏の暑い盛りに西南に伺って、早4か月経りました。夢のように楽しい時間でした。民族楽器のケーナやサンポーニャで西南の校歌を演奏し、皆さまの歌で繋がった感動は何にも代えがたいものでした。長い西南の歴史の中で初めての試みでした。

簡単ですが、メンバー紹介をさせて戴きます。ケーナの友情出演の中山先生はおおらかで優しく、『いいですよ、いいですよ』といつも私達を温かく包んでくれます。同じく友情出演の三野さんは三野マジックで聴衆を引きつけ、その魅力に子供たちも目を輝かせて見入っています。リーダーの近藤さんは現役のサラリーマン、本当に厳しい仕事のわずかなすき間の時間に音楽活動を続けています。由縁をしっかりと導き、メンバーが心底頼りにしているリーダーです。辻本さんは粘り強く練習を重ねて積上げるタイプ。地道ですが、確実な演奏をします。キーボードの荒嶽さんは冷静沉着、正確なリズムは私達を引っ張り、まとめます。そして私、松田はうっかり八べえ、のんびりした性格はみんなを寛がせ、影でまとめています。それぞれが持ち味をミックスして、質の良い、上品な演奏を目指しています。

これからも西南の皆さまとのご縁を大切に演奏活動を続けて行きますので、末永くよろしくお願い申し上げます。

英語学科主催 第6回マロリーカップ英語スピーチコンテスト 小学生の部に参加して

北九州市立吉田小学校長 佐方 はるみ

マロリーカップに昨年(10月1日)出場し、その経験を生かして、小学校外国語活動に子どもたちがスキットのもつ魅力を体験し、喜びと自信と将来の素地として、力をつけていけたらという思いで参加しました。

6年生を対象に本コンテストを紹介したところ、12人の応募があり、課題とオリジナルを選んでもらい4組で練習をし、そのうち2組が本番に選ばれました。グループ全員がそろそろ時間を確保するのは、むつかしく中休み、昼休みと放課後等を確保し、夏休みも時間差でそれぞれのグループが集まり、校長、担任、ALTの力を借りながら、それぞれのセンテンスの意味とリスニングをしていきました。聞いた通りをカタカナで書いたり、発音を覚えたり、意味を理解していく作業をマンツーマンでセンテンス毎にしていって根気のいるものでした。2学期の本番までは、上記の時間と朝早く来ての20分、土日も含めグループ全員がそろそろ週3回ほど時間帯を使って練習をしました。スキットの雰囲気やジェスチャー、言い方や等はALTの指導や励ましをたくさん受けました。



左から
本城明さん・太田千聖さん・小代綾音さん

本番当日まで衣装や小道具を保護者や担任の協力を得ながらそろえ、それらは、子どもたちがその気分になる重要な要素であり、楽しみながらせりふと併せながら小道具等も揃えていきました。

本番は緊張の中にも練習のノリもよく、ワクワクしながら参加していました。入賞したことにより、学校だよりや全校児童集会で英語と日本語で自己紹介や配役等も紹介披露しました。6人は自分達がここまでできたことに自信をつけたようで、英語が得意ではなかった子どもについては、特に入賞できたことに対する自信は大きかったようです。明るく、英語に対しても積極的になり、保護者やALTの喜びや賞賛も大きかったです。中学校では、「1人のスピーチコンテストにチャレンジしたい」と英語への意欲も高まりました。

社会が求める人財（人材）とは・・・ — 今、学生のうちにしておくこと —

けんしゅう企画/江田 康子
(短期大学 英語科1997年3月卒業)



私は本学の非常勤講師であり、企業研修の講師でもあります。企業研修の講師の立場から、「企業が求める人材とは・・・今、学生のうちにしておくこと」を考えてみたいと思います。

さて、企業の第一目的はご存知ですか？・・・『利益の獲得』です。すなわち『利益の獲得』に貢献できる人財（人材）が必要であるということです。その為の専門知識もさることながら、ここでは学生のうちに身につけておくというマナーについてお話し致します。

皆さん方は大学を卒業した後、どのような企業に入社を希望していますか？具体的にイメージしてみてください。ホテル関係でしょうか？旅行会社？総合病院？個人病院？福祉施設もさまざまあります。皆さん方がイメージした働きたい職場はどのような建物ですか？どのようなOA機器が入っていますか？どのような歴史がありますか？

その企業がどんなに立派な社屋を持っていても、最新の機器が揃っていても、そこで働くスタッフのモラル、マナーがなければお客様から信頼を得ることは出来ません。マナーを学ぶということは人間としての品格を上げることです。働くスタッフの品格が上がれば、企業のグレードが上がり、お客様からの信用信頼を得ることができます。それが企業の『利益の獲得』に繋がるのです。マナーは日々の生き方の姿勢そのものです。その人の生き方の姿勢が動作や言葉遣い等から見えるものです。

さて、第一印象は5秒で決まるといいます。この短い時間の中で目から入るもので第一印象が90%決まるといいます。まず目から入るものとして笑顔が重要です。笑顔は人と人との距離を縮める道具です。相手が自分を受け入れてくれる最善の方法です。良い笑顔はたくさんのお客様から支持され企業の業績アップに繋がります。企業研修をしていると「自分が思っているほど笑顔ができていないですね」多くの受講生が言います。大袈裟なくらいの笑顔で自分の気持ちが相手に伝わるのです。いつも笑顔で好感を与えるように日々の生活の中に取り入れてください。

次に、立ち居振る舞いを考えてみましょう。まずは正しい歩き方。正しく歩くためにはヒールが3cm～5cmが適当です。過剰に高いヒールやスニーカー、ベッタンコの靴は美しく歩くことができません。また授業中、椅子に座っている時、膝が離れていませんか？両膝を付けて座るように意識してください。またノートを取る時、テストをする時、どのような姿勢をしていますか？頬杖をしませんか？机の上に身体をだらしないく投げ出していますか？企業の中にはオフィスがお客様対応のカウンターと一体になっているところが多くあります。携帯電話のショップがそうです。いつもあらゆる角度から見られています。企業の経営者や管理職の方々はだらしない態度に神経を尖らせます。だらしない態度はだらしない仕事に繋がるからです。日々の姿勢を意識してみてください。

さて、雨の日、傘は何処に置いて授業を受けていますか？机と机の間の通路に置いていませんか？大きなバックも置いていませんか？通路は人が通る場所です。大きなバックも傘も通る人の邪魔になります。自分の持ち物が人の邪魔になってはいけません。企業の合同説明会の会場で、椅子に自分の荷物をどかっと置く。その荷物を足下に置けば他の人が座ることができます。自分の荷物が人の迷惑になっていないか、自分の行為が周りにマイナスの影響を与えていないかを考える力を養ってください。細やかな気

遣いができてこそ企業人として信頼されます。

また、敬語を使えてこそ一人前です。敬語は目上の人と話しをする道具です。敬語があればこそお客様と話しができるのです。敬語は高校時代にも学んでいるはずですが、上手く使えないようです。上手く使えないのは日頃から使っていないからです。大学生として使って身に付けておいてください。

若者言葉や流行語は企業には必要ありません。《うざい！むかつく！あけおめ～ ことよろ～》企業にはさまざまな年齢の方がいます。ある年齢以上の方は決して快く思っていない。相手が不快と感じたならば意志の疎通は上手くはいきません。言葉は意志の疎通の道具。若者言葉や流行語は企業では効果的な道具になるどころか人と人を隔てる壁になる言葉です。

次に話す行為を考えてみましょう。自分の言いたいことを上手く伝えられずに後悔したことはありませんか？話すというのは自己表現です。人生は自己表現の連続です。自己表現が適切であるというのは自分を上手く活かすことができるということ、逆に自己表現が下手ということは自分を上手く活かすことが出来ないということです。自分の都合の良いように相手は自分を理解してはくれません。自分の言葉で相手に伝える練習が必要です。

皆さん方は新聞を読んでいますか？新聞は読みましょう。自分の興味があるところだけを読むではいけません。相手の興味があることで話しが盛り上がりれば相手は少しづつ心を開いてくれます。その為にさまざまな情報にアンテナを立てておくことが必要です。

さて、新聞には全面広告、部分広告等、紙面を割いています。靴の広告、電化製品、国内外の旅行、サプリメント等。それぞれの商品の特色を交えて相手が理解できるように説明をしてみてください。すなわち商品説明を読んで、相手が理解できるように言葉を組み立て直すわけですね。その時鏡を使って鏡に映る自分の顔に向って、笑顔で伝えてください。商品説明に慣れたら、新聞のさまざまな情報を伝えてください。表現力がつきます。

最後に声のコミュニケーションについてお話します。小さな声、ぼそぼそした声、途切れがちな声、早口、語尾上げ等、声は相手の耳に届き理解を促すものです。聞きづらい声は何を言っているのか分かりません。相手をイライラさせ不快にさせます。声は腹式呼吸、滑舌、腹筋を鍛える事によって明確ではっきりと元氣よく相手の耳に聞こえます。学生のうちは先生に当てられたら学生全員の耳に聞こえる声の大きさを返す努力をしましょう。また滑舌を良くするためには日本語の5つの母音を丁寧に発音することです。相手から何度も聞き返されていたら自分の声は正確に届いていないかもしれません。

マナーは知っていても何の意味もありません。自分の身に付けて、表現ができて始めて相手に伝わるものです。参考になったところがあれば明日からとは言わず今日からでも始めてください。日頃のちょっとした意識が日々の姿勢を作り自分自身を形成していき

Do your best!



就活 国家試験 英検

今だからできること。
未来の自分を信じてすすめ！

私たちの挑戦



「就職活動記」

観光文化学科4年 木下 智世



わたしの中学の時から将来の夢は、「結婚式場で働くこと」でした。

将来、自分がどんな仕事をするのだろうと考えたとき、小学校のときに行った結婚式を思い出しました。人生で1番幸福な瞬間を過ごすカップルとそれを祝福するゲストたち、そんなHAPPYが溢れる空間で自分もお手伝いが

できたら最高だなと感じました。

そして、その夢は約7年越しで、今年の9月ブライダル会社に就職内定という形で実現することができました。ここから、わたしの就職活動についてお話しします。

わたしの就職活動が本格的に始まったのは去年の12月頃です。夏ごろからSPI対策などはしていましたが、合同説明会や会社説明会に行き出したのはこの頃でした。この頃の気持ちは緊張感と不安とやる気、色んな感情が混ざっていました。

就職活動を始めて3ヵ月経った3月、保険会社から内定を頂きました。なぜブライダル企業を志望していた私が保険会社かというと、私は業種を問わずとりあえず少しでも興味がある会社の説明会には足を運んでいたからです。その理由は、「就職活動は今しかできない社会勉強になる」と考えていたからです。私はまだ社会に出て働いたことがないし、実際に働き始めたらその業界のことはよく知ることができますが、他の業界を知る機会も少なくなります。だから私はゼネコン、スーパーマーケット、製鉄関係など多くの業界をまわりました。その行動によって、志望業界で業界の志望理由を聞かれたとき他の業界と比べてどこが魅力的なのかをより具体的に答えることができたと思います。

就職活動を始めて半年。この頃には友達にも内定をもらった人がちらほらと出てきて、私の志望するブライダル業界に決まった人も出てきました。この頃の気持ちは一生懸命やっ

ているはずなのに成果が出せない自分への悔しさや焦り、情けなさが入り混じった気持ちでした。それでもゼミに行って先生やみんなとお茶しながら就職活動のことを話したりすると心が和んだし、観光文化の去年の先輩方の就職体験談を思い出し、「先輩たちも辛いときを乗り越えて成果を实らせたのだから私もきっと」と気持ちが前向きになるように努めました。

そして、就職活動を始めて約8ヵ月。遂に、第一志望であったブライダル企業に内定を頂きました。この頃にはもうブライダル企業はほとんど募集もなく、最後の望みをかけてこの会社を受験していたので、内定を頂いたときには涙が出そうなほど嬉しかったです。

あと数ヵ月で卒業ですが、今思い返すと、観光文化学科の履修プログラムは本当に就職活動に役立つものが多く盛り込まれていて、色々な教授や講師の先生から就職活動や社会に出て役立つことを教えて頂きました。就職課の先生にアドバイスをもらったり、就職セミナー、面接講座を受けたりもできましたし、ゼミの菅先生も就職のことを気にしてマメにアドバイスしてくださいました。特に須藤先生のインターンシップの授業で、私たちが希望する1つ1つの企業に先生が出向いてくださり、私たちも貴重な経験をさせて頂きました。これは、後に私の就職活動に大きな影響がありました。なぜなら、インターンシップ先の企業は、今回わたしの内定を頂いた会社だからです。面接でも、実際に仕事を見て働いたので具体的な話をすることができました。

このように私を含め、観光文化学科の生徒は就職活動をやる面で本当に恵まれた環境にあったと思います。私が自らの就職活動を通して1番強く感じるのは、「感謝」の気持ちです。

就職活動を通してお世話になった方々に今度は私が社会人になって、仕事を通じて多くの誰かを喜ばせることによって恩返しできたらと考えております。

私にとっての就職活動はもちろん辛い面もありましたが、ときに楽しくもあり、大いに自分と向き合うことができた、私の人生におけるとても貴重な体験であったと感じます。



国家試験を通して

観光文化学科1年 柳沢 祐希

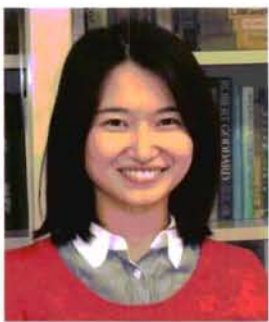


私が、国内旅行取扱管理者試験を受験しようと思ったのは、恥ずかしながら、1年生のうちに何か資格を取得できればよい、という漠然とした理由からである。

今だからこそ言えるが、初めて専門的な業法、約款や運賃などに触れ、私にとってその授業は、退屈極まりない苦痛の90分であり、気づけば大波小波の夢の中のときもあった。また、以前に旅行取扱管理者試験について取り上げたテレビ番組を見たことがあり、合格率は国内が3割、総合（海外）は1割5分。過酷な現実を突きつけられ、国家試験の厳しさを目の当たりにした。更に、資格取得のために専門学校へ通う生徒も取り上げられていた。彼らは、1、2年を通し、じっくりこのために対策をたてるのである。だが、一方で5ヶ月足らずの対策、加えて、特に強い信念をもって受験するわけでもない私が同じ土俵に立ち、合格などできるはずもない。

英検準一級合格記

英語学科3年 矢島 理穂



みなさん、大学生活を楽しんでいますか？何か自分が熱中できるものはありますか？今回は私が大学生活の中でチャレンジしてきたことや、私なりの勉強法などについてご紹介したいと思います。

まずチャレンジしてきたことについてご紹介すると、私は1学年のころには日本語教職を履修したり、短期でJICAのボランティアに参加したり、後期からは約1年間、他大学の研究プロジェクトにアシスタントとして参加し、その一環で夏休みにフランスへ行ったり、2学年の頃には日本人類言語学会の学会誌（2011年、Vol.VI）に共同執筆で論文を投稿したりしました。これらのことは全て私が選んでやってきたことで、決して強制された訳ではありません。特に九州工大でのアシスタント業務、それは工業系の文書の翻訳・通訳・旅行のアレンジ（ホテルの手配／電車の座席予約）などでした。それらは実践的で、大学の座学では学べないことばかりです。そのころの私はとにかく必死でした。しかし、それらを経験したことで私の考え方に柔軟性が広がり、交遊関係も併せて広がりました。

また、海外ドラマが好きで、『LOST』という海外ドラマを1学年時に英語で全て観ました。それは英語の力を高めたいからということではなく、一回そのドラマを観てハマってしまったからです。話の内容が知りたいから、聞こえてくる俳優たちの台詞を集中して聴いていました。それを続けていたら、いつのまにか全121話を観ていました。そして、偶然にも、今年の春にハワイに旅行した時に、その『LOST』という映画のロケ地巡りをしてきたほどです。

私たちは英語を専攻する学生ですので、社会に出て、やは

そのような心情の下、夏休みの特講を受講し、過去問題を解くことで徐々にモチベーションがあがり、試験への姿勢も一変した。また、試験の項目に実務（この中に運賃計算、観光資源の問題などが含まれる）があるが、その観光資源は膨大な数があり、相当な時間を費やす。しかし、私の家族は旅行が好きで、その影響を受けたお陰か、観光資源は取り組みやすかった。また、テレビ番組や写真集を活用し、より効果的に印象づけた。

そしてこの度、幸いにも資格を取得することができた。しかし、それ以上に受験するまでの過程、つまり「改心」、「努力」、「忍耐の維持力」の意義を見出せたことが、何よりも私の喜びである。加えて、時間を費やすことに重点を置くのではなく、「要領」や「集中した取り組み」を行えば張り合えると悟った。

無論、特講を開講してくださった先生、家族や友人にも感謝しきりである。今回を機に、多面的に興味・関心をもち、常にアンテナを張り巡らせることは、特に旅行業にとって不可欠な要素だと感じた。

最後になるが、壁にぶつかったとき、この経験を思い出し、今後につなげていきたい。

り英検などの資格を取って初めて自分の英語力を実証できました。そこで、英検にチャレンジしたり、TOEICを受験したりしてきました。TOEICでは、問題の形式に慣れることが大切だと思いました。英検に関しては、旺文社の英検問題集を10年分以上解いた気がします。TOEICは主にBarronの問題集を使用したのですが、レベルを上げるために徐々に難度の高い教科書を探して使っていました。それらをこなすには、時間をどう学校の授業と合わせて配分していくかが難しいと思うのですが、私は1年のころから英語の塾でバイトしていたこともあり、バイトの合間に解いたり、高校生のTOEICや英検の授業に入り込んだりしました。今はこのバイトをしていないので、大学の先生たちに協力してもらって英検の英作の添削やパラグラフライティングの書き方を教えて頂いています。しかしそれらの勉強は全て大学の授業であったことの延長線上ですので、今まで使用した教科書を参考にしたり、もっと発展的な勉強がしたいときには自分のレベルに合った書籍を購入したりしています。

私は自分の負担になるような勉強は一切してきていません。興味本位で始めたことや、趣味の延長線上に英語関連の試験を持ってきてただけなのです。そうでなければ、私はとっくにやる気を無くして大学の授業に参加するだけで満足していたと思います。私のこのような勉強方法は私のライフスタイルに合わせたやり方ですので、皆さんの参考にならないかも知れません。しかし、自分のライフスタイルを作り守りながら、自然に自分の生活に取り入れる大切さを少しでも分かっていたら嬉しそうです。何もしなければ大学生活はあっという間に過ぎていきます。この前入学したばかりだと思っていたのに、3年次も終わりに近づきつつあります。自分がなぜ高校卒業してすぐに就職せずに、大学に入学したのかという意味をもう一度問いただせば、何もせずにはいられない気持ちになります。今のこの瞬間にも大切な時間は容赦なく過ぎていっていますから。

Letter from the UK

Akiho Tsuji English Department (Year 2)

I have been staying in England for two months now. When I first arrived here, I couldn't understand English at all and nor could I speak. It was a most shocking experience for me. Then I realised I needed to change my mind. I didn't know how I could improve my English skills, but I thought I needed to talk with many people. I noticed I couldn't improve my English skills just by attending classes or spending the time here. At first I made many mistakes and I was embarrassed, but I was able to learn many English words and much grammar. Moreover, I needed to improve not only my English skills, but also my communication skills. Therefore I tried to speak in classes and in my flat while not being afraid of failure. Of course I still make some mistakes now, but I noticed the most embarrassing thing is that I never notice my mistakes. When I make some mistakes, my friends and teachers correct them, and then I



can learn new things. I'm still embarrassed about making mistakes, but I feel it is fun to talk with people in English.

Moreover I'm trying to visit many places in England. England has a lot of historical places, and they are very interesting for me. I could learn much about history and culture here that I could never have learnt in Japan. I thought I should visit all places that I want to visit and see their value for myself. I thought that to make decisions without confirmation with my own eyes would be very bad for me.

Finally, I think I'm learning to act enthusiastically. Doing something that I want is more difficult than I could have imagined. I noticed I could learn a wide variety of things, not only about English, but also by living here. I want to spend my time fully while I am here as it will be the best experience of my life!

Anytime, anywhere

Satoko Murata English Department (Year 2)

Two months have passed so quickly since I came to England. At first, the temperature rose and fell many times in a day, so I couldn't get used to the climate. I felt it wasn't easy to conform to not only the social manners and customs, but also the climate.

Now, *I'm learning anytime, anywhere*. These are fine words to express my impressions. For example, even if I'm cooking in the kitchen, I can talk with my flat mates about traditional British food. Even if I'm having a stroll around Winchester town, museums and buildings show me their history. In addition to the classes, there are a lot of wonderful things I can learn.

One day, I went downtown. An old man asked me if I were Japanese. When I said I was, he asked, "Are your family and friends safe?" with a worried look. As you know, we Japanese had an unforgettable disaster this year. Such experiences as this one have happened more than once. Although England has many kinds of ethnic groups, the people living here are concerned about Japan and praying to God for Japan's revival, even if Japan is far from here. I hadn't known about that, so I was surprised, but at the same time, my heart was warmed by his kind words.

I do love the wonderful buildings, good food, and lovely people in this country. As long as I'm here, I want to be an enthusiastic person about absorbing new knowledge!



村田さん (写真左)

フィジー留学を経験して

英語学科2年 西村 怜 西村 悠

皆さんはフィジーという国をご存じですか。南太平洋14カ国の中心国で、333の島から成る共和国です。年間を通して暖かく過ごしやすい気候で、日本の沖縄を想像していただければ分かり易いと思います。

さて、リゾート地として名高いフィジーを留学先として選んだ決め手は何だったのでしょうか。主な理由は2つです。簡潔に述べると、物価の安さとフィジー人の人柄です。まずフィジーの物価は日本の約3分の1なので、日用品のほとんどが日本より格安で手に入ります。次に私たちがこの国に魅力を感じた理由は、何とんでもフィジー人の人柄です。陽気でフレンドリーな彼らは、道ですれ違う度に "Bula!" と明るく挨拶してくれました。言いたいことが上手くまとまらず四苦八苦しているときでも、彼らは親身になって話を聞いてくれました。それはホームステイ先でも同様で、ホストファミリーは私を本当の家族のように接してくれました。生活していくなかで感じたことは、伝えたいと思う気持ちの大切さです。英語が苦手だからとか、恥ずかしいからといって臆病になる必要は無いということです。ジェスチャーを交えて一生懸命伝えようとすることで、相手は理解しようとしてくれます。

また南国ならではの解放感を感じることもできました。私たちは1カ月という短期間での留学でしたが、週末には必ず海や少し

離れた島に行ってバーベキューをしたりして楽しみました。さすがにリゾート地とあって海や手つかずの自然の美しさは想像をはるかに超えるものでした。

皆さんは「語学留学」と聞くとほとんどの人がアメリカやイギリスといった国を連想するでしょう。しかしフィジーのような留学先としてはあまり知られていない国へ行ってみるのもまた違う発見があります。私たちはこの留学を通して皆さんのことを学ぶことができました。特に驚いたことはフィジー留学者の9割は一人で来ていたということです。そのぶん学生はやる気のある人たちばかりで学校生活でも刺激を受けることが多く、年齢層や出身もばらばらの人たちが集まるので友達もたくさんできました。

もし今、留学のことで悩んでいる人がいるのなら、挑戦することをおすすめします。簡単に決められることではないし、不安もあると思いますがそれ以上に得るものは本当に大きいです。"Sky's the Limit!!" フィジーでの貴重な経験を、今後の英語学習や学校生活に活かしていきたいです。



左から悠さん、怜さん

留学体験記

観光文化学科4年 伊藤 碧

昨年6月、日本の梅雨入りを前にして私はアメリカ、シアトルへと旅立った。ワシントン大学へ半年間の語学留学である。有り難いことに、何度となく海外へ行く機会に恵まれてきたものの、このように長い期間というのは初めての経験。緊張のあまり胃をこわし、加えて同行人は壊れかけた薄いブルーのトランクのみである。そういった諸々の状況は不安を掻き立てるばかりであったが、未知の世界に対する期待と高揚感の度合いも過去に感じたことのないものがあつた。

さて、留学を通して感じたこと、それはやはり一にも二にも「人との出会いの素晴らしさ」の一言に尽きる。中でも特に楽しかったのは「空港や飛行機の中での出会い」である。なぜか空港や飛行機の中で、ほぼ必ずといっていいほど話しかけられたのだ。ラッキーだったのは日本からアメリカに向かう最初の飛行機の中で、早くも友達を作れたことである。その記念すべき友人第一号、メキシコ人のマリオには随分と助けられた。それというのも行きの際はサンフランシスコで乗り換えることになっており、「ちゃんと乗り継げるか」という不安で半ばパニックに陥りそうになっていたからである。しかしながら、彼がいてくれたお陰で私の不安はほとんど解消された。

その後もこのような出会いが飛行機を利用する度にあり、その内の数人とは今でもfacebookなどを通じて連絡を取り合っている。こういった「異国の地に1人」という心細い状況の中だからこそ、際立って感じられた出会いの「有り難さ・素晴らしさ」は、私にとって忘れられない思い出となった。

留学することの魅力、それは何といても異国の地で学ぶからこそ可能な、密な異文化交流である。現地で暮らすわけだから、毎日の生活そのものが異文化交流となるわけだ。お店での店員さんの対応やバスの運転手さんの仕事ぶり、カフェでのトイレの利用法に至るまで全てが違う。その中でも個人的に貴重だと思ったのは、中国人や韓国人の友人との出会いである。アジア圏の人々と関わって感じたのは、「日本人」がいかに彼らと違うかという点であった。近いから、肌の色が一緒だから何となく寄り添えると思ったら大間違いである。特に英語を学んでいる者としては、関心が西洋に向きがちになるので特に注意が必要であるが、隣国

韓国での語学研修を終えて

英語学科3年 尾上 恵

私は、昨年9月から今年の8月までの1年間、韓国に語学研修に行きました。

中学生の時から語学、特に英語と韓国語に興味があり、大学で1年間、第二外国語として韓国語を学びました。その後、本格的に韓国語を学びたいと思い、韓国に行くことを決意しました。

韓国では、韓国語学校で勉強しました。授業では韓国語が使われ、日本はもちろん中国、アメリカ、オーストラリアなどから来た、国も年齢も様々なクラスメイトと一緒に勉強しました。条件は皆違いますが、韓国語を学びたいという気持ちは同じだったので、年齢や文化の差に悩むことはありませんでした。逆にクラスで一番年下ということもあって、皆に可愛がってもらい、アットホームな雰囲気の中で楽しく学べました。国際色豊かな環境にも関わらず、皆の共通言語が韓国語ということが不思議でしたが、おかげで韓国語を使う機会が多く、より早く言葉になじめました。授業では、意見を求められることが多く、韓国語だけでなく、他国の文化について学べたことも大きな学習でした。

留学以前にも韓国に旅行経験があつたので、様々な面で日本と大差はないと考えていますが、実際に住んでみると、やはり文化の違いを目の当たりにすることも多々ありました。韓国人との接し方や町の様子など、考えていた以上の違いに心が折れそうになることもありましたが、周りの人に相談し、生活をしていくにつれて少しずつ慣れていきました。

韓国に行って学んだことの1つに、「家族や周りの人の大切さ」があります。初めて家族と離れて生活してみて、小さなことで悩み、挫折する日々の中で、自分がどれだけ周りの人に頼っていたのか、



伊藤さん

の住人である彼らとの関わりは本来とても大事なもののなのではないかと感じた。

最後になってしまったが、英語の勉強という面でも(もちろん)大いに刺激ある生活を送ることができた。個人的な勉強の仕方でも効果があつたと思えたのは、やはり映画などのDVDを繰り返し観たことであろうか。1日時間がある場合は、同じ映画を3回丸ごと観たり、特に覚えたいやり取りのシーンを何度も何度も繰り返し観たりしていた。そしてそれらをメモし、次の日の授業中や友人のおしゃべり、買い物中に交わす店員さんとの会話に織り込むのである。むしろ「DVDを繰り返し観る」ということは日本でも出来ることだが、それで覚えた言葉をすぐに実践に移せるということが留学中の大きな利点だ。そうやってきちんと通じた時の喜び(自己満足だが)といったらない。この自己満足をいかに自身に味わわせてやれるかというのは、勉強に対するモチベーションを保つ上でキーになってくる。後に続かんとされる方々はメモされたし。

さて、実をいうと私は既に26歳。そんな私がぜひ伝えたいメッセージは「みんな本当に若いのだから迷わず挑戦!」。苦笑いされても仕方がないが、事実である。挑戦してみたいことがひとつでもあるのなら、是が非でもチャレンジしてもらいたい。そこには新たな発見と、かけがえのない思い出となる無数の経験が待っているはずである。



尾上さん(写真左)

自分がどんなに小さな人間であつたのかということを考える機会になりました。

2つ目に、「自分に与えられた時間の大切さ」です。韓国生活は、自分なりに充実した日々であつたと考えていましたが、帰国してみるとやり残したことも多く、後悔することも少なくありませんでした。このことを通して、これからは全てのことを、自分なりに一つ一つ精一杯やっつけていこうと考える様になりました。

私にとって韓国での1年間は、多くを学び、経験し、考える貴重な1年間でした。この経験を糧に、残りの大学生活や社会生活においてさまざまなことを学び、精一杯楽しみ、社会に貢献できるように日々努力していきたいと思つています。

● 皆さん、楽しかったことは何ですか？

D: 研修中いろんなところに行きました！

N: 初めてのホームスティだったので、毎日の生活がとても新鮮で楽しかった。Cもホームスティですか？

C: そうです。楽しかったことは、ホームスティ先から大学に通ってたんですけど、日本の学生だけでなく他の国からも私たちのように研修に来ている人たちがいて、クラスも何クラスかあるので、他の国の人たちともたくさん交流を持てたことが楽しかったです。

N: いろんな国の人たちと一緒に授業を受けたんですか？

C: 授業は違ったんですけど…教室は横でしたし、近くに小さいカフェテリアのようなものがあったので、そこで喋ったりしてました。外でBBQしてた近くを通ると“おいでよ！”と声をかけられたりもありました。

C: SとDはホームスティなんですか？

S: 私たちは違ったよ。大学構内にホテルがあるんだけど、そこにみんな泊まったの。ホームスティとは全然違うんだけど、学生との交流はありました。

C: 中国に行ったお二人は学生との交流はたくさんありましたか？

S: 違う大学の人がか、ほかにも学生はいたけど、食堂で会うことがあるくらいでなかなか話せなかった。



カナダ



中国（上海）

海外研修 座談会



夏期海外研修に行かれた参加者の中から、次の4名に集まって頂き、座談会を行いました。

英語学科 3年 大畠夕依さん（カナダ=C・22日間）、
観光文化学科 3年 瀬口絵梨奈さん（中国・上海=S・24日間）、
観光文化学科 3年 岸本りいみさん（中国・大連=D・10日間）、
観光文化学科 2年 帆足友里さん（ニュージーランド=N・21日間）

ニュージーランド



中国（大連）



D: 私たちは、教育実習だったんですけど、教えたクラスの子がホテルに果物を持って遊びに来てくれたりしました！あっちの学生がとても積極的だったから、観光地とかじゃなく地元の人が行くようなお店にも連れて行ってもらいました。

● 海外で大変だったこと・学んだことは何ですか？

S: 言語がやっぱり、中国語は英語と違って大学から勉強始めたから、わからない言葉も多くて、書いたら通じることも多かったけど、それもできないときがありました。

D: 言語もそうですけどトイレやお風呂も大変でした。停電や断水になる日もありましたよ。

C: カナダは水資源をとても大切にしているので、日本みたいにシャワーをずっと使えばなしはだめでした。

慣れてないから5分くらい使っていいよと言われたことに驚きました。

D: えっ!? 短い!!

C: そうなんですよ! リンスインシャンプーを使って、そのまま流さないで体を洗って、一緒に流したりしました。バスも日本とは違いましたよ。時刻表がメインのバス停しかマップに載ってなくて、もちろん時間も書いてなくて。

N: Nもバスの時刻表は、始発しか書いてませんでした。

D: 大連はそんなことなかったなあ。でも“これバス停!?”っていう場所にあたりるので戸惑いました。

S: 上海は日本みたいなちゃんとしたバス停でしたよ。

● 最後にこれから海外研修に行く人へアドバイスをお願いします。

S: 上海と日本はやっぱり違いが多いから、ひとつひとつ受け入れていく姿勢を持つことが大事! 日本の延長線だと思って行かないほうがいい。違いを理解して。逃げちゃだめ。

D: 留学生を受け入れる態勢はできているから、現地の人にいる聞いてたりして、話してみる! 私、中国語できないの。ではなく、人と交流して

いく中でわかっていくこともたくさんある。

C: ホームスティ先で我慢しなきゃいけないことは多々あるけど、すべてを我慢してはだめ。例えば、食べれない食べ物があったりしたら迷わずに言うべき。

N: 薬はいろいろ持っていくべき。普段風邪をあまりひかない人でも、食生活や生活が変わると風邪をひくかもしれないし、腹痛がするかもしれない。

D: 日本人は、毎日脂っぽいものを食べることに慣れてないから、キャベジン持って行ったほうがいいよ!

● 皆さん、本日はどうもありがとうございました。

担当：梅野 夏奈子（観光文化・3年）
伊藤 未央（観光文化・2年）

京都観光フィールドワークについて

観光と異文化交流

観光文化学科1年 吉田 すみれ

今回の京都観光フィールドワークは、観光の本質は異文化交流であるということが実感できるものでした。

フィールドワークでは、座禅体験で「和の心」を学び、舞妓さんとの交流では京都ならではのホスピタリティ、老舗旅館では日本ならではのおもてなしの心を学び、西陣織会館では日本伝統の美しさを痛感することができました。どれも初めてのことがばかりで、日本のことなのにこんなに知らないことがあるのかと気づかされました。住んでいる地域や生活文化が違うことでたくさん違いがある、それらを観光することによって実感することができました。

日本は観光立国宣言をして以来、訪日外国人を増加させるために様々なことに取り組んでいます。しかし、それらをする前に私たち日本人が日本についてもっと知るべきであると今回のフィールドワークによって実感しました。訪日外国人が増えても、現状で日本のことについて正しい知識を紹介できる日本人は少ないと思います。

それらを打開するには、私たち日本人が日本のことにもっと興味を持ち、自文化と触れ合う機会を増やすべきだと思います。

京都観光フィールドワークを通じて、「自文化理解」を深め、外国人と異文化交流を行う際に、日本文化の良さをアピールし、理解してもらうことが大事であるということがよくわかりました。

理論と実践

観光文化学科2年 草村 有樹

京都観光フィールドワークのおかげで、「観光学入門」で習った理論を実践で検証することが出来ました。

京都旅行での一日目は、古くから親しまれている東山閣というホテルに宿泊しました。そこでは、支配人の方にホスピタリティとサービスの違いや、実際に社員を採用する上でどのような人材を求めているのかなどをお話して頂きました。

まずホスピタリティとサービスの違いです。一般的には同じような意味にとらえられがちですが、「観光学入門」でも学んだように、ホスピタリティとは「思いやり」や「心のこもったおもてなし」という意味です。なので、お客様に喜んで頂きたい！という気持ちでの接客はホスピタリティといえます。実際にホテルの方の接客から、お話しして頂いたことや授業で学んだことを体感することができました。

次にどのような人材を必要としているかについてです。東山閣では、資格そのものよりも取得するまでの努力など、

人間性、ホスピタリティ性などを重要視しているそうです。

今回の旅では就職活動に向けての準備段階として、何が必要かを学ぶことが出来ました。就職活動までの一年、自分に足りないものを補い自分自身を高めていきたいと思っています。



大学生活を200%楽しむためのフレッシュキャンプ

観光文化学科1年 渡邊 夕奈

2011年5月20日～21日に観光文化学科でのフレッシュキャンプが行われました。

1日目。まずバスで阿蘇ミルク牧場に行きました。到着するとバイキング形式での昼ご飯を頂きました。その後、アイスクリーム作りを体験しました。みんなで作ったアイスはとても美味しく出来上がりました。しばらくミルク牧場内での自由時間があり、私たちは牧場内を見学しました。牧場内にはたくさんの牛やヤギ、子豚がいて、普段触れ合えないような動物たちと触れ合うことが出来ました。阿蘇ミルク牧場を後にし、九重高原コテージに行きました。そこでの夕食はバーベキューでした。ご飯を食べた後、ゼミごとにミーティングがありました。そこでは様々な話をして普段仲の良い私たちでもまだ相手の知らない部分もたくさんあることに気づき、大変貴重な時間を過ごすことが出来たと感じました。ミーティングの後は友達と温泉に入りました。露天風呂に入りましたが空に雲がかかり、きれいな星空を見ることは出来ませんでした。夜はCクラス全員が1つの部屋に集まりました。たくさんのお話をし、元々仲良しですが、もっと仲良くなれた気がします。

2日目は黒川温泉に行きました。そこでは黒川温泉の歴史を知ることが出来ました。私は、黒川温泉に行ったことがありませんでしたが入湯手形のことをあまり詳しく知らなかったため、背景にそのようなことがあったことを知り大変驚きました。講習会のあとに自由時間

があり、はちみつソフトクリームを食べたり、たくさん写真を撮ったりしてとても楽しかったです。その後、バスに乗り日田に行きました。そこでは昔からの建物がたくさん並んでいて、時代を直に感じる事が出来ました。

この2日間、たくさんの人と仲良くなれて、このフレッシュキャンプは私にとって、西南女学院大学をより楽しく過ごすためのものだと感じています。



渡邊さん (写真左端)

"Most Popular Cosmetics" on our campus

いつの時代も美容に敏感な女性達…。今回は英語学科・観光学科の学生70名にアンケートを行い、一押しコスメの調査をしました。堂々たる1位は…!?

* Face Lotion *



No.1 16票(22%)

Gokujuun Hyaluronic Acid

(ROHTO Pharmaceutical Co.) ¥1,200

- 次の日の朝までぶるぶる肌
- 肌がもちもちになる

No.2 10票(14%)

Isoflavone

(SANA) ¥945

- 安くて肌にやさしい
- もちもちになる



No.3 6票(9%)

Acerola Lotion

(DHC) ¥1,260

- 肌が潤って、しっとりする
- 安くて、にきびに効く

* Lip Cream *

No.1 28票(40%)

Mentholatum

(The mentholatum Co.)

¥380

- 無香料なのが良い
- 唇のかさつきに効く



No.2 10票(14%)

DHC Lip Balm

(DHC) ¥735

- 保湿力がある
- 潤いが持続する



* Mascara *

No.1 27票(39%)

MAGNUM

(MAYBELLINE NEW YORK)

¥1,200

- 伸びがよくて使いやすい
- 一度使ったら手放せない!



No.2 9票(12%)

MAJOLICA MAJORCA

(Shiseido) ¥1,200

- つけまつ毛いらずでポーリューミー
- 容器が可愛い、しかも使いやすい



やはり女子大学！学生間での美意識は非常に高く、貴重な意見やコメントを集めることができました。

どの商品もお手頃価格で、入手も簡単ですのでこの機会に是非一度お試しください☆

アンケートにご協力くださった皆様、ありがとうございました。

調査員：宮脇小雪・衛藤瑤子・鈴木里彩・佐伯栞・小柳香央里

今回、東北、宮城の震災ボランティアに参加して感じてきたことはたくさんあります。

私は宮城県の石巻を中心として現場に行ってボランティアさせていただくことができました。本当にどの場所も3.11から時間が止まったままといった感じでした。自分の目の前に広がっている光景がテレビで見た光景と何ら変わりがなく衝撃的でした。がれきの山、崩壊した防波堤、枠組みだけの建物、変形したたくさんの車など。あのがれきがなくなるためにはいったいどれだけの歳月がかかるのだろうと気が遠くなりました。学校の3階の窓に突っ込んだ状態のままの車を見たときは、福岡という大都会に住んでいる私たちには想像することができないような「現実」を突きつけられたような気持ちになりました。

2011年3月11日14時46分ごろ、国内観測史上最大のM9.0の地震が発生。津波や火災で多数の命が一瞬にしてなくなりました。私とその放送をテレビで見た時、とても大きな衝撃を受けました。テレビはどのチャンネルをつけても東北の震災のことを流して、日本でなにか大変なことが起きていると知らずにはいれませんでした。

私がボランティア活動に参加しようと思ったきっかけは、学校の授業の中で「スピーチを考えてくる」という宿題が出された時に、何について書くか悩んでいた私は、毎日報道されている東北の事を書くかと思ひ、知識不足だった私は、パソコンを開き、東北のことについて、震災のことについて、たくさんのことを調べました。調べている中で、多くの動画を見ました。その動画は、テレビで見たことのないような、とても衝撃を受けるものばかりでした。私は、その動画をみるたびに、涙がとまりませんでした。それから、私は東北の方々の役に立ちたいと強く思うようになりました。そしてボランティアに参加することを決めました。

私は9月17日から25日の1週間、「エマオ」というボランティア団体の一員として活動しました。エマオの一日の流れは次の通りです。まず、朝6時前に起きて上下ジャージにレインコートを着て、ゴム手袋に長靴をはいて、エマオの本部に集合します。本部にきた人から朝ご飯のシリアルを食べます。そして、朝のミーティング開始です。エマオには、短期間のボランティアさんがたくさん来るので、その日初めて来た人が自己紹介をして、その後、その日参加するワーカーは、スタッフから、いくつかのグループに分けられます。分かれた後にそれぞれのグループが今日はどこにワークしに行くかを確認し、グループごとに分かれてワーク先に向かいます。ワーク先までの約14キロは、毎日みんなで自転車をこいでの移動でした。ワーク先に着いて、ワーク開始です。ワークの内容はそれぞれ異なるけれど、私は、家の泥だし、壁ふき、砂落としを中心にやりました。ワーク中にも、たくさんの震災を受けた人とお話をすることがあり、被災者のリアルなお話を聞くことができました。その日のワーク終了後、また本部に戻り、地域の方が作ってくださった美味しい夜ご飯を食べて、ミーティングをし、それぞれ自分の寝る場所に戻り、寝袋で寝る。そしてまた朝を迎えるといった流

れでした。

ワークをする中で、自転車の移動中、被災地の方々が「ありがとう」「今日も宜しくお願いします」と私たちに向かって声をかけてくれました。また、ワーク先では、被災地のかたと一緒になって、片付けをするなかで、思い出だけでもつらい出来事を、涙をこらえながら話してくれました。東北の方々は、本当にとても暖かく心優しいひとばかりでした。被災地のかたは本当にすばらしいと感じました。

エマオのスタッフは大学生が多く、また、ボランティアにくるひとでも学生がたくさんいました。エマオの団体の一員として働くなかで、自分たちと同じ気持ちでボランティア活動をしにきている人と意見を交換しあったり、話をしたりして関わりを持つことができたし、なにより自分の意識が大きく変わりました。学生の私にでも助けることができるということがボランティアを通してわかりました。小さなことでもちよつとずつ積み重ねていけば最終的には大きな力になるということを、今回のボランティア活動を通してがらつくづく感じました。

今回参加して感じた事は良い言葉ではないかもしれませんが「良い経験」でした。心から行って良かったと思えました。東北に実際行って見て被災地の現状を見たらわかるように津波の破壊力は並々ではない、ということに改めて感じました。そして何百年に一度しか来ないようなその恐ろしい津波を体験した人がいる、またその津波のせいで亡くなった方々が何万といると考えると気持ち何と表わしたらいいかもわからなくなりました。

テレビで放送している現場を見るのとはまた違う感覚でした。実際行ってみるとまだ全然人の手が届いておらず3月11日から時間が止まっている場所もありました。今回学んだことはとても多く、良い経験になったと思います。何よりも強く感じたことは「あたりまえ」が続くことがどれほど幸せかということです。私たちは今綺麗な学校にいて、帰る居場所もあります。これがどれだけ幸せなのかを感じさせられました。何年、何十年か後に東北もあたりまえが日常に戻ってくることを祈ります。

私は、春休みもう一度参加したいと思います。それぐらい今回初めてこのようなボランティアを経験することができて良かったと私は感じています。きっとその場所に行かなかったら一生学べなかったことがあったと思うからです。実際に行ってみないとわからないこと、感じられないことがたくさんあると思います。だから、ボランティア活動をしてみたいと思っている人は、私は参加してほしいなと思います。いろいろ苦しい思いをするかもしれないけど、それ以上に得られるものは大きいと思います。

震災から半年が経ち、被災地は少しずつ復興していると感じましたが、今までのように生活できる環境にまで戻るには、まだまだ月日がかかると感じました。日本全体としては報道で取り上げられる機会も減りつつあり、一人ひとりの意識もだんだん薄れていると日々感じます。私はこの経験を多くの人に伝える中で、もう一度あの出来事を思い起こしてほしいのです。



東北でのボランティア活動

英語学科1年 藤井 ありさ



“研究室は秘密の部屋”

観光文化学科 林 裕二 教授

インタビュー

観光文化学科3年 衛藤 瑠子

観光文化学科3年 鈴木 里彩

(冗談なども挟みながら
楽しくお話させていただきました。)

Q どんな科目を担当していますか？

A TOEIC演習（英語資格演習）、時事英語入門、Basic Grammarなどです。就職に使えるような言葉を使いこなす力を身につけてもらいたいと思っています。学生の皆さんは、英語を話せたらカッコいいなと思っていると思うのですが、私も憧れます。私も学生時代に英語の名人みたいな先生たちにどうしたら上手くなるか聞きました。そうすると誰もが「読みなさい」というアドバイスをくれるのです。本を読むのかパソコンのモニターから読むのか、媒体は時代によって変わりますが、結局は「読む」ということが最も大事だと実感しました。皆さんにはできるだけ、外国語でも日本語でも「読む」トレーニングをしてもらいたいと思いつながりながらやっています。また、聞くトレーニングも大切だと思っています。読むこと、聞くことを多くして知識の枠組みを大きくすることが大学時代は大切だと思います。

Q 林ゼミではどのような事をやっているのですか？

A 映画「ローマの休日」のシナリオを英語で読んでいます。英語で映画のシナリオを読むことは初めての体験なので学生のみなさんは四苦八苦しています。また授業とは別に、新聞に自分の意見を投稿するという活動をしています。採用されると図書カード3千円分がもらえるんですよ、これはおいしい！何より嬉しいのは自分の文章が新聞に載るといことです。最初はみんなそんな無理だと言いますが、1人、2人と採用されていくとみんな頑張るようになります。卒業するまでに全員何度か新聞に載ることになり、中には二万円以上稼いだ人もいます。

Q どのような本を読んでいますか またお勧めを教えてください

A 英語の本であれば、3匹の子豚など何でも面白ければ良いでしょう。面白いと思う本を何度も読むのも効果的です。夏目漱石・松尾芭蕉・万葉集など今でも読みます。時代を超えた価値があると思います。お勧めは村上春樹の『1Q84』とか『ノルウェイの森』。まあ僕は読みませんが...。他には『モレルールねこ』の加納萌子なども。

Q どんな趣味をお持ちですか？

A 学生時代は全国3位のチームで卓球をしていました。でもレ

ギュラーではなく、もっぱら球拾いでした。中学校から社会人までしました。大学時代は授業に出ずに2時から8時まで練習することもありました。出席を取らない授業に出ると先輩に怒られました。ほとんど出席を取らないのです。最近では、野菜作りにはまっています。今年の夏はミニトマト、なす、きゅうり、レタスを植えました。子供たちと一緒に野菜を作りますが、子どもたちは育てるのは大好きだけど食べません。また、レタスの種をまいて春先に100ぐらい芽がでました。今年の秋はレタスを買わなくてすむなと思っていましたが、ヒヨドリ（野鳥）がやってきて、あっという間に食べ尽くされてしまいました。いいものはなかなか育たないのです。

Q もうすぐ就活が始まりますが、心がけることはありますか

A 就活は3年の後期から始まるものではなく、入学した時から始まります。日頃からコツコツ積み重ねが大事であり、その場しのぎの知識では企業の担当者には通用しません。例えば、きちんと授業に出る、提出物をちゃんと出すなど当たり前ですが、日頃の習慣が就活にはそのまま出ます。

Q よくイヤホンをしています、何を聞いていますか？

A 落語 奥の細道 ビートルズ 伊豆の踊子を聞いています。70年代の洋楽も聞いています。J-POPには興味はありません。

Q 先生は、研究室に入れてくれない(笑)ということですが、本当でしょうか？

A “快適に” 散らかしていますからね。

Q 最後に私たちに伝えておきたいことはありますか？

A 元気を出して学校でいろんなことをしてもらいたい。生きることは食べることです。しっかり食べて、生きる力を育ててください。



左から衛藤さん、林先生、鈴木さん

編集後記

本誌、通巻第10号をお届けします。西南の杜も今や、「風暖かにして 鳥声碎け 日高くて 花影重なる」(杜 荀鶴)と朗吟されるように新たな春の到来を目前としています。キャンパスを歩き交った皆さんの学友がこの学びの杜の学窓から巣立ち、また新入生を迎える春です。ご覧のようにこの度は人文学部の母体である英語科の卒業生の皆さんからも“声”が寄せられています。大学は“自己耕作の地”、“自己耕作の時”です。多くの先輩が闊歩し、思索したこの西南の杜に身を置く主役は皆さん自身です。先輩そしてまた学友の“声”の“広場”たる本誌にこれからも皆さんの投稿を歓迎します。Stay Connected. Be Informed. Join us.

学生編集委員：(英語学科) 宮脇小雪、佐伯 栞、小柳香央里

(観光文化学科) 一ノ瀬 葵、梅野夏奈子、衛藤瑠子、鈴木里彩、田口華奈、伊藤未央

編集委員：橋本満弘、菅 英輝、Swanson, Malcolm、山本廣基、横林宙世、樋口真己

橋本満弘 (識)